

おりひめちゃんが行く！

交野戦国絵巻

三の巻

問い合わせ 社会教育課文化財係 (TEL 893・8111)



交野を巡る実力者く安見一族く

安見宗房

1550年代から活躍した、安見一族の中では一番著名な人物です。飯盛山城の城主で、河内国の実質的な支配者にまで上り詰めた、北河内の実力者でした。文化人としての側面も強く、非常に高価な茶道具を多数持っている、強い財力があつたことが分かってきました。

安見右近

私部城主として、「多聞院日記」や「言継卿記」など、当時の文献資料に登場します。1560年代半ばから活躍しました。石清水八幡宮文書では星田の住人として登場し、交野の広い地域を治めていたことが分かります。

元亀2年(1571年)、松永久秀(松永弾正の名で知られる大和国の戦国大名)に、織田方を裏切ることを強制されましたが、これを拒否したため、大和の多聞城で切腹させられました。

安見新七郎

安見右近が亡くなった後、1570年代に私部城を守り、松永軍の猛攻をしのぎました。その後、織田政権下では「取次者」(政権と河内国の地侍との間を取り次いだり、交渉を行う者)という重要な地位に就いていましたが、本能寺の変後は、表舞台から姿を消してしまいました。



幻の

安見直政



あまんの豆知識

私部城主として、江戸時代以降のさまざまな軍記物に登場するのが、安見直政です。しかし直政は、安見宗房を基に、安見右近の経歴を合わせて後世に作られた、架空の人物です。

新宮山八幡宮(上写真)

現在、星田公園になっている場所には、鎌倉時代に石清水八幡宮から神様を迎えた神社がありました。本宮である石清水八幡宮に対して、新しい神社であるため、新宮と呼び、星田を中心とした荘園の米や用材を集めて本宮に送る役目を担っていました。

私部城が存在していた永禄12年(1569年)の石清水八幡宮文書には、安見右近が本宮に供物(年貢)を納めないで「けしからん」との記述があります。

